

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200036		
法人名	社会福祉法人桜友会		
事業所名	グループホームほほえみごこち		
所在地	岐阜県関市稲口833番地1		
自己評価作成日	平成22年6月24日	評価結果市町村受理日	平成22年10月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaiqosip/infomationPublic.do?JCD=2190200036&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaiqosip/infomationPublic.do?JCD=2190200036&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人といよの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成22年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人がその人らしく暮らせるような空間作りや環境づくりに努めている。地域との交流についても自治会長さんを初め地元の消防団や地域のボランティアさんとの交流、学生のボランティア・実習などを受け入れ関わりを深めている。季節行事を大切にしその時期に合わせた食材を献立に取り入れたり、おやつ作りに取り入れ季節を感じてもらっている。毎日の日課として筋力低下予防の為体操(TV体操・リハビリ体操・セラバンド体操)を取り入れている。複合施設の特長を活かし施設行事にも参加してもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の高い倫理観・専門知識・講師資格に裏付けされた指導力が発揮され、その実践が実を結びつつある。積極的に地元の高校へ「認知症と介護」の講義に行ったり、ヘルパー2級の実習生を受け入れる等、事業所の存在が地域にとって大切な社会資源として認められつつある。この管理者の下、職員も意識が高く、利用者の思いや意向を受け止め、食事やおやつに季節感や見た目や味を楽しみながら創意工夫し実践している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・グループホーム理念の理解を勉強会を通じて深め、理念に向かってそれぞれのレベルに合わせた個人目標を立てている。	地域密着型である事業所独自の理念を会議等で常に話し合い、日常のケアの中で理念を意識して関わり確認し実践している。機関誌であるホームだよりやパンフレットにも反映させている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週2回地域のお店に買い物に出かけたり、地域行事の参加や運営推進会議の地域代表のお宅へ野菜の収穫へ訪問させてもらっている。地域交流行事の開催にあたり回覧板や地域の店舗に掲示をお願いしている。	利用者が桜見物、五平餅会や焼き芋会など地域行事に参加、地域の人に事業所行事に参加してもらい交流している。地元高校へ「認知症や介護」の講義に行っている。ヘルパー2級の実習生を受け入れ、積極的に連携し、協力関係と信頼を築きつつある。	「認知症や介護」の専門的知識や講師資格を持つ管理者の実践や連携の積極的な広報を望みたい。ボランティアや実習生の受け入れプログラムの作成や担当者の明確化など、システムの確立を期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアさんや近隣の小中学生の訪問時、実習生訪問時に認知症の理解を深めてもらったり、近隣の高校へ講義に出かけた。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の会議で報告した内容についての課題の進捗状況や前回の会議後からの活動報告を行い、現状の課題を上げながら助言をもらっている。	外部評価での課題について会議で報告し話し合っている。家族アンケート結果を会議で報告したり、職員の努力目標も公開したり、意見や要望をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき情報交換をしたり、必要に応じて窓口や電話相談をしている。介護相談員の受け入れもしている。	市町村と日頃から連絡を取り合い、相談時には利用者の暮らしぶりやニーズを具体的に伝え、連携を深めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠状況については、前年と比較すると開錠できる日が多くなってきているが、職員の勤務状況によっては安全の確保が出来ない場合は、開錠できないこともある。	職員が身体拘束をしないケアを正しく理解し、玄関の施錠についてはセンサーを設置し、出来る限り施錠しない工夫や施錠しない日数を増やす努力をしている。	管理者・職員全員が身体拘束をしないケアの実践として完全に玄関を施錠しない方法・工夫を検討されることを期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待を考える」のテキストを参考文献とし勉強会にて職員へ意識をもってもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「福祉関係者のための成年後見制度活用講座」テキスト等を参考文献しながら現在入居者の中で利用している方がいることも把握してもらいながら勉強会等で理解してもらっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定の時にはご家族に来ていただき、書面と口頭にて説明をしている。契約時には重度化や看取りについての対応方針等を説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート調査を行い満足度や要望を伺い運営に反映したり、家族交流行事を開催し、職員と家族が関わる機会を増やし話しやすい雰囲気作りをしている。	職員は、面会時等、話しやすい雰囲気づくりに心がけ家族からの意見や要望を聴いている。家族アンケートを実施し、意見や要望を運営推進会議に報告し運営に反映させる工夫をしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティング・勉強会を開催し、入居者の処遇に関する意見や業務改善等、意見を出してもらっている。半年に一度個人面談を行いそれぞれの思いを聞きながら反映できる事については反映させている。	ミーティングでは、職員が自由に意見や提案ができ、業務に反映できるシステムとなっている。職員の意見から、県の派遣職員制度(雇用創出事業)を活用して、現職員の勤務にゆとりを持たせ、勤務体制の見直し改善を行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理と人事考課制を導入、上司面談で達成度・実績を評価、結果は昇給・賞与に反映され努力が評価される。また、嘱託・パートは就労時間を考慮し、正規職員も短時間労働制を取り入れることで働きやすい環境の整備に努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新採職員は1年間の教育訓練計画に基づき定時のスキルチェックで習熟度を見る。以後は就業年数に応じ外部研修参加・資格取得を奨励、また資格取得のための資金援助制度有。昨年認知症実践者研修、及び指導者研修終了の実績有		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護職員部会、生活相談員部会には積極的に参加させ、交流の機会を設ける。また法人内事業所間で連携をとることで介護、及び認知症に関する知識を深めサービスの質を向上させる取組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ入居前にはご本人さんに見学していただき何時間も経過してもらい、他入居者さんとの相性も図りながら安心して暮らせるような情報収集行っただうえで入居していただいている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接を行い、本人・家族の思いや要望を確認し、事業所として対応できる内容と出来ない内容についてのご理解をして頂いて信頼関係を築くようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居していただく前に必要としている支援を他機関と連携しながら情報収集している。緊急性が必要と思われる方については、他サービスの利用についても助言している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の際にはスタッフ・入居者と一緒に食事を食べながら、いろんな会話をしながら家庭的な雰囲気作り心掛けている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状況に応じて病院受診をお願いしたり、家族の了解のもと、ケアプランに載せて家族との外出機会を設けてもらったり、面会をお願いしたりしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族さんにも協力をお願いして馴染みの人を聞いたり、親戚の方たちにも面会をお願いしている。外出行事にも個々の馴染みの店への外出も取り入れている。	お盆のお墓参りに一緒に付き添ったり、息子さんに定期的に馴染みの店に連れて行ってもらうなど、馴染みの人や場所との関係が途切れない工夫をしている。家族との協力づくりのため、家族連絡帳を活用している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の入居者同士の相性を見ながら時々席の配置を替えている。所々に座れるスペースを設け必要に応じてスタッフが仲介しながら関わりを持ってもらえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の特養に移動された入居者については、時々の様子を見に行ったり、ご家族が面会に見えたときに様子を伺ったりしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思がはっきりして見える方については、出来る限り意見を尊重し、ケアプランを作成している。困難な入居者に対しては、行動や仕草から本人の思いを捉えるように努めている。	日頃から声かけを多くし、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。日常的に困難な人には行動や仕草、生活の24時間シートの活用により、本人の思いを理解している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との関わりを深めていく中で、本人の生活歴や等の情報収集に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日朝と夕方にミーティングを行い必要に応じて主治医や看護師と連携しながらその日のスタッフ同士で気づきを共有し、個人記録に記載している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には必要に応じて思いや要望を確認したり、状況によってはその人を取り巻く周囲の方にも協力してもらいながら、毎月カンファレンスを行いプランの見直しをしている。	定期的に本人や家族と話し合い、職員の意見を取り入れ、希望や意向を反映した介護計画を作成している。個別の評価表を参考に、毎月カンファレンス・モニタリングを実施し、必要に応じて計画の見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに日々の様子やバイタル、入浴状況、排便状況等を記載し、重要事項についてはミーティング帳にも記載し実践に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設である強みを活かして必要に応じて他事業所と連携を図り交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月ボランティアさんに訪問してもらい外出行事や施設行事のお手伝いをしていただいたり、市役所から介護相談員の受入をしている。地域の床屋さんにも毎月訪問してもらっている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には本人・ご家族が希望される医療機関で家族対応で受診してもらっている。場合によっては、主治医と手紙で連携を図ったり、スタッフ援助にて受診する場合もある。	本人・家族の希望するかかりつけ医に家族対応で受診している。受診後は意見状況報告書等で事業所へ結果を伝えてもらい嘱託医や職員・看護師と情報を共有し支援している。週1回、歯科医の往診を受けている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一日に1回はほぼ訪問してもらい、入居者の様子を観察してもらっている。状況によっては何度も訪問してもらいながら家族や主治医とも相談してもらったり指示をもらっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は少しでも認知症の症状が悪化しないようにスタッフが入れ替わりで面会をして予防したり、病院の看護師等と情報交換している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約を交わす際に「看取りに関わる指針」により終末期の事を確認しておき、実際に重度化してきた場合には再度家族の思いを確認しながら方向性について話し合いをしている。	入居時から重度化や終末期に向け看取りについて、家族と話し合い確認している。重度化してきた場合には、家族と事業所が終末期に向けた方針を確認し合いながら、職員も情報を共有し段階に応じ取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不定期ではあるが、緊急時の対応について事業所での勉強会や施設全体の勉強会にて訓練している。夜間については緊急マニュアルを作成している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回施設全体で消防署や地元の消防団に協力してもらい防災訓練を昼間帯、夜間帯を想定しながら実施している。事業所としては勉強会をして防災意識を高めている。	消防署の協力や地元消防団に協力してもらい、年2回の避難訓練を施設全体で行っている。夜間想定での避難訓練も実施し事業所職員の意識を高めているが、地域参加が不十分で事業所独自の訓練は行っていない。	事業所独自で、夜間火災や自然災害を想定した実践的な訓練・対策の強化を望みたい。また、運営推進会議で十分に検討し、地域の具体的な支援体制の工夫、努力を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	パーソン・センタード・ケアの考え方を基本とし毎月1回認知症に関する勉強会を開催し、一人一人の人格を尊重できるようなケアに努めている。	その人らしさを大切に、日頃のケアの中での利用者への声かけや会話の中から一人ひとりの人格を尊重している。プライバシーにも配慮し工夫したケアを行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りその人の思いが尊重できるようにコミュニケーションから情報収集したり、言葉で表現できない方については表情や仕草で感じながら対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食についてはそれぞれの起床時間に合わせ提供し、昼食夕食については状況に応じて時間帯をずらして食べていただく事もある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類については普段着と外出着を分けており自分で決める事ができる方はご自分で決めて着てもらい、出来ない方については職員が本人と確認しながら決めている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬な食材を取り入れた献立を意識しながら、地元の業者の方に食材を運んでいただき食材を見ながら季節を感じてもらい、出来る方には部分的に調理を手伝ってもらっている。	事業所独自の献立を立て、おやつも手づくりしている。出来る方には下ごしらえや盛り付けを一緒に行っている。旬の食材を地元業者に依頼し、季節を食材から感じてもらう工夫がある。キザミ食やペースト食も対応できる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の少ない方については食事・水分チェックを行い必要に応じ主治医とも相談しながら栄養管理をしている。好き嫌いについては出来る範囲で代替食や調理法を変えて提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの誘導はするが、その人によっては拒否される場合もあるので一日1回はやっていただいている。必要に応じて歯科医や歯科衛生士の方に口腔ケアを定期的にお願している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立にて排泄される以外の方は24時間排泄状況をチェックし、排尿・排便感覚をつかみ時間を見ながら誘導し失敗を減らすよう努めている。	排泄チェック表から、その人の排泄パターンに応じた誘導時間を見つけ、自立に向けた排泄を支援をしている。入居時紙パンツであった方も、パット利用になり、昼間は自立した生活を送る利用者もあった。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に乳製品(牛乳、飲むヨーグルト、ヨーグルトいずれか)を摂取してもらい、その人に応じてプルーンと果物にて自然排便を促している。乳製品の苦手な方には野菜ジュースを提供している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後からの入浴時間ではあるが、毎日入浴できる体制をとりその時間の中で自分が入りたい時間帯のある人は尊重している。	午後からの入浴が毎日可能である。順番や時間帯についても、個別の希望に合わせている。また、失禁や夏の汗をかいた時のシャワー浴は、必要に応じてこまめに行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて昼寝をしてもらったり、日中いるんな仕事をお手伝いしてもらいながら安眠に繋がられるように努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋については個人ファイルに綴り処方内容が変わった際にはミーティング帳に記載し、状態観察しながら悪影響が見られるようであれば主治医や看護師と相談している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かして調理を手伝ってもらったり、ご家族に協力をお願いして喫茶店や外食に連れ出してもらい気分転換を図ったり、園芸等の趣味を活かしてもらっている人もいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事係が月1回の外出行事を企画し馴染みの場所であったり、普段いけない場所を入居者と一緒に行っている。外出行事には必ず地域の外出ボランティアさんをお願いして外出している。	月1回の外出行事を企画し、事業所が募集したボランティアの協力で、花見や春祭り、花フェスタ記念公園に出かけている。日常的な外出は、散歩や週2回の買い物をしている。また、馴染みの喫茶店へ地域のボランティア団体の協力で外出を支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて本人さんとご家族さんの責任のもとご自身で管理できる方については所持していただき、外出時や食材を入れてもらう業者に買いたいものがある時は、ご自分で支払いをしてもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人さんの要望に応じて手紙やはがきを書いたり電話をしてもらっている。正月には年賀はがきをご家族に送っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらえるように装飾品やお花を飾ったり、入居者の方が好まれる歌番組やお笑い番組をビデオ録画し鑑賞してもらっている。	季節の花や行事の写真、日めくりカレンダーを掛けたり、お雛様やクリスマスのちぎり絵、切子の調度品などを飾ったり、楽しいなつかしい空間づくりを工夫している。空調の温度調節をこまめにし、利用者等の体調への配慮をしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にいろんなタイプの椅子やテーブルを置き、それぞれがくつろげる場所の空間作りに努めている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ住み慣れていた場所に近い空間作りをご家族にお願いし、馴染みのもの等も持ち込んでいただき、居心地よく過ごしてもらえるよう努めている。	ベッドとクローゼットは備え付けであり、利用者個人の好みに合わせて床から畳へと変更したり、使い慣れた椅子、お孫さんや家族の思い出の写真を飾り、居心地のよく過ごせる工夫や努力をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の生活スタイルに合わせてベッド対応にしたり畳対応にしたりして自立生活が送ってもらえるようにしている。		